

# ニュース

2023年12月1日号



ハイフの皆さん、こんにちは。桜ヶ丘ハイフまちづくり協議会からのお知らせです。

### <お休み処から>

いよいよ師走ですね。寒さも一段と強まり、冬も本番となって来ました。

今年の秋は目まぐるしい気温の変化に振り回されましたね。9月はいつまでも夏が続き、10月は急に涼しくなり、このまま秋から冬へと季節が移って行ってしまうのかと思っていたら、11月の初旬でも夏日が現れ、次の週にはあちらこちらで雪が降ったりと、あまりにも激しい気温の変化に驚いてしまいました。

皆さん体調を崩してはいませんか？

年末は何かと気忙しい日々が続きます。どうぞお体に気をつけて良いお年をお迎えください。

さて「お休み処」では

11月6日(月)

「五平餅パーティー」でした。(47名の参加者)

数日前までは雨の予報でしたが、幸いなことに当日は夕方までお天気が持ってくれて助かりました。男性のグループ(7~8名)、幼稚園児を連れた若いママさんのグループ等、久々に大勢の参加者があり、賑やかで楽しい一日でした。

11月20日(月)

「お琴の演奏会」でした。(30名の参加者)

昨年は都合により開催できませんでしたが、久しぶりに優雅なお琴の音色を楽しませていただきました。

### 今後の予定

12月4日(月)「健康講座」(8回目)です。(前月号でお知らせ済み)

10月と同じ講師です。寒さで固くなる身体を動かしましょう。

12月18日(月)「鷺見真澄さんのコンサート」です。(ちらしをご覧ください)

会場いっぱい響き渡る美しい歌声をお楽しみください。

1月1日(月)お正月につきお休みです。

コロナもインフルエンザもそこそこ流行ってはいますが、ワクチンのお陰でしょうか？もしかたとしても、あまり重症化はないようですが、用心するに越したことはありません。気を付けましょう！お休み処も予防対策をしっかりとって皆様のお越しをお待ちしております。

お問合せ先 小澤 ☎64-3175  
又はお近くのスタッフまで



## 「ゼロカーボン」で地球沸騰化を止めて！～今私たちに出来ること～ (3)

可児市は2022年7月に「ゼロカーボンシティ宣言」を発し、今年の7月に「可児市ゼロカーボンシティ推進計画」を出しました。ゼロカーボンシティ宣言を出したのは2023年9月29日現在、991自治体になっています。

可児市における温室効果ガス排出量は2018年度で84.7万t-CO2で、内訳は産業54.9%、運輸19.0%、家庭12.6%、業務10.9%、廃棄物2.4%、農業0.2%となっています。この現況をもとに、2013年比2030年CO2削減46%、2050年ゼロの実現に向けて、具体的にどのように進めていくのか。「産業、運輸、家庭、業務」部門を削減するためのPDCAが必要不可欠です。「プランを作り、行動し、チェックして、アクションしていく」時、ポイントはチェック機能が内部ではなく、第三者機関で市民に「見える化」されているかです。

「行政と市民の協働の政策づくり、まちづくり」として、ヨーロッパの国や自治体で、気候変動をめぐる政策決定への参加のあり方として2019年から取り組まれている活動に「気候市民会議」があります。その動きは日本でも2020年の札幌市からはじまって、2021年川崎市、所沢市、2022年武蔵野市、日野市...と広がってきています。地球沸騰化という地球的地域的課題に私たちに何が出来るのか。「気候市民会議」の取り組みを紹介します。

気候市民会議とは、人びとが直接参加し、じっくり話し合う機会を増やして、複雑性・不確実性が高まる諸問題での「舵取り」として、市民の役割を拡大しようとする、新たなしくみです。

無作為抽出などによって、その自治体の縮図となる市民が集まって議論し、その結果を政策決定に反映していく仕組みで、「くじ引き式の市民会議」といわれています。具体的には

- ①参加者は対象となる自治体の縮図(構成)となるように集めます
- ②議論に先立って、参加者に対してバランスのとれた情報の提供を行います。参加者には、議論のテーマについて必要な予備知識を持っていない人も多く含まれていますので、関係する幅広い情報を参加者の間で共有したうえで議論を行うように考えられています
- ③参加者同士がじっくりと話し合うこと(熟議)。そのことで、お互いの変化を生み出されます
- ④話し合いの結果は、意見書の作成や投票などの形でまとめられます。

今回は具体例として、東京都武蔵野市での「気候市民会議」の取り組みを紹介します。

\*参照資料：『気候民主主義～次世代の政治の動かし方～』(三上直之著、岩波書店2022年5月刊)

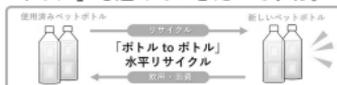
## 「ボトルtoボトル」水平リサイクル、やっていますか!?

11月5日の桜ヶ丘ハイフ秋まつりで、「水平リサイクル」の展示をしました＝写真。

日本では年間248億本も使用されているペットボトル。一人当たり200本。リサイクル率は86%で繊維やトレイなどになっています。でも、使用量、すぎませんか!?

水平リサイクルとは、使用済みのペットボトルを原料にして、新しいペットボトルに再生し、何度も繰り返し活用することです。可児市は、パローとサントリーと連携して、脱炭素社会を目指す一つとして取り組んでいます。桜ヶ丘地区センター北口に回収BOXがあります。小中学校でも実施していると聞きました。みんなでも取り組んでいきましょう。

「マイボトル」も進めていきたいですね。



### <櫻ヶ丘部会から>

☆ 櫻ヶ丘部会では、偶数月に「定例会」を開いています。今回は12月9日(土)18時00分～19時30分、桜ヶ丘地区センター2階会議室で行ないます。参加は自由です。

### <ミライ部会から>

☆ ミライ部会では、奇数月に「定例会」を開いています。今回は2024年1月13日(土)18時00分～19時30分、桜ヶ丘地区センター2階会議室で行ないます。参加は自由です。